

自惚れ 「威張る」を参照。鼻高の手まねをする。

馬 五指の指頭を上になし掌を向い合せた両手の手首のところで頭の両側につけ、こまかく動かして馬の耳を表わす。

うまい うまい（美味）。

(一) 右手の五指の指頭を左になしして、上向けた掌で顎の上を拭うようにする。食べた物がうまいので、涎を拭うこと。(二) 手の甲を右に向けた右手掌で、顎の下をこする。この手まねは「味」と云う意味にもなる。

(三) うまい（上手）。「腕前」「上手」と同じ手まね。

うまいことをした 手甲を右に向けた右手の拳で、顎を下から一、二度打つ。

生れる 五指の指頭を前方になし掌を向い合せた両手を腹の夫々左右両脇につけてから、両手を斜め下方に突き出し降す。腹から

出る身振り。

海 小指の指頭を舌頭でなめる真似（塩からさ表わす）をして、五指の指頭を左になし掌を上向けた右手を海の水面を表わすつもりで、五指をこまかく波打たせながら、肘を右へ引いて行く。

産む 「生まれる」と同じ手まね。

梅 右手の指頭を左になした人差指と中指の二指を（掌を内側に）下顎に平行にあてがい、次にその二指の指頭をこめかみの上辺りにつける。指を口唇にあてがうのは「赤」を意味し、こめかみの上辺りにつけたのは、頭痛の時梅汁を頭にぬることから出来た手まねであろうか。

敲たたまろ 左手の掌の上に、指頭を上になした親指の右手を載せて上へ頂くようにさし上げる。

裏 「内側」と同じ手まね。

裏返す 五指の指頭を左にさし掌を下向け
た右手を上向けに反転させる。

占い 右手で筮竹を持ったつもりで、左の
掌の上に置き、易者がするように筮竹を廻わ
す真似

恨らむ 「怒る」の手まねをして、拳を顔
の前に突き出す。



羨やましい(羨やむ) 五指の指頭を前方に

さし掌を下向け
たその手の手甲
の手首よりのと
ころを鼻頭につ
けたまま五指を
上下に動かす。

売る 五指の

指頭を右にさし掌を上に向けた左手の前方の
位置に、右手人差指と親指で(他の三指は
伸ばしたまま)輪をつくり(金銭)その輪

即ち金銭を胸もとに引き寄せると同時に左手
を前方へさし出す。左手は商品、右手の金
銭と交換に先方に渡す。即ち「売る」であ
る。

憂い 憂う 「案じる」と同じ手まね。

嬉れしい 五指の指頭を左にさし掌を内側
にした右手を胸にあて、上下に快よさそうに
さする。胸の中の晴々した状態を表わしたも
の。

うるたえる 「周章てる」と同じ手まね。

噂 五指の指頭を集め合わせた両手を或程
度の間隔を置いて向い合わせてものを放つよ
うに交互に両手の五指を開き合う運動を二度
ばかり繰返す。この指の運動は、言葉即ち話
を交わされる様を表わしたもの。

運動 (4) 体育を意味する運動

(一) 拳にした両手を前へ同時に突き出して
は、肘を胸の両脇に引く。即ち体操の真似。